

(1)実証実験の実施状況について

道の駅「コスモール大樹」を拠点とした
自動運転サービス
地域実験協議会 事務局

(1) 実証実験の概要

〇レベル2

- 走行距離：約7.6 km
(1周あたり)
- 走行日：5日間 17便
[12/11(月)、12/12(火)、12/13(水)、12/15(金)、12/16(土)]
- 停留所でモニターの乗降を実施
- 停留所数：11箇所
(道の駅、町立病院、役場前等)
- 走行時間：約40分

〇レベル4

- 走行距離：約500m
- 走行日：12/14(木)
- モニターは乗車しない
- 走行方法：専用空間にて走行



(2) 運行スケジュール別の乗車モニター人数・運搬商品

	12/11 (月)	12/12 (火)	12/13 (水)	12/14 (木)	12/15 (金)	12/16 (土)
1 便	9 : 30 道の駅発 9 名	9 : 30 道の駅発 4 名	8 : 45 福祉センター発 16 名	—	8 : 45 道の駅発 5 名	9 : 30 道の駅発 6 名
2 便	11 : 00 道の駅発 6 名	11 : 00 道の駅発 6 名	11 : 40 福祉センター発 10 名	—	11 : 00 道の駅発 12 名	11 : 30 道の駅発 8 名
3 便	13 : 00 役場発 野菜配送 7 名	13 : 00 日方団地発 洋菓子配送 5 名	13 : 30 道の駅発 アイス配送 7 名	—	13 : 30 道の駅発 4 名	
4 便	15:15 道の駅発 5 名	15:15 道の駅発 8 名		—	15:15 道の駅発 パン配送 4 名	合 計 122 名 乗 車

※12/14（木）はレベル4走行であり、モニター乗車なし

野菜配送：かぼちゃ1箱を役場から道の駅へ配送し、販売

洋菓子配送：10箱を大樹西本通から道の駅へ配送し、販売

アイス配送：40個を川南団地から道の駅へ配送し、販売

パン配送：40個を100km以上離れた足寄町から輸送、
道の駅から松山・双葉町団地経由、
戸別配送し、販売



野菜配送の状況



パン配送の状況

※下線は自動運転による配送区間

主な検証項目

- 以下の項目に対し、検証を実施。

項目	実験において検証する内容
(1)道路・交通	○相互に円滑な通行のための道路構造の要件○自動運転に必要となる道路の管理水準 ・後続車の追い越しを考慮した幅員 ・除排雪や凍結防止剤の散布等 ・停留所の設置 ・路肩駐停車車両
(2)地域環境	○冬期(積雪時)における磁気マーカによる自己位置特定性能、GPSとの精度差
(3)コスト	○磁気マーカの整備、維持管理コスト等 ○車両の維持管理コスト
(4)社会受容性	○自動運転技術への信頼性、乗り心地
(5)地域への効果	○円滑な地域内物流の支援 ・生産拠点から道の駅への加工品の配送実験 ・道の駅から住宅への商品等の配送実験 ○高齢者の外出機会の増加 ・役場への行政手続き、国保病院への通院、道の駅への買い物での利用 ・広域路線バスへの乗り継ぎ ○運営主体のあり方 ・自治体や交通事業者等の役割分担 ○採算性確保の方策 ・将来の利用ニーズ(支払意思額、求めるサービスレベル等) ・地元の食材を使った加工品の出荷機会の拡大可能性 ・将来の地域の協力体制(企業支援等) ○他事業との連携 ・実験参加者の将来参入ニーズ(広域路線バス) ・新たな連携先(農業・観光業等)のニーズ

(2) 実験時の状況

「道路・交通」の検証

(相互に円滑な通行のための道路構造の要件)

(自動運転に必要となる道路の管理水準)



後続車の追越しを考慮した幅員等



路肩除排雪状況の確認等

「社会受容性」の検証

(自動運転技術への信頼性、乗り心地)



道の駅での
乗客モニターの乗降



自動運転技術への信頼性、
乗り心地等に関する
乗客モニターアンケートの実施

「地域への効果」の検証

(高齢者の外出機会の増加)



「いきいき健康クラブ」の開催に合わせた福祉センター発着便の実施



道の駅で帯広方面への広域交通
と連携した便の実施

(円滑な地域内物流の支援)



生産拠点から道の駅への
加工品の配送



道の駅から住宅への
商品等の配送

(3) 運転状況調査の概要

○運転状況調査

- ・ドライバーメモによるマニュアル操作介入状況
(ハンドル操作・ブレーキ等)
- ・ドライブレコーダーによる映像
(車両前方および後方)

ドライブレコーダー



実証実験時のドライブレコーダーの映像

(4) アンケート調査の概要

○乗車モニターアンケート調査

実施日：平成29年12月11日(月)～16日(土)
対 象：乗車モニター
調査方法：乗車前後に、道の駅で聞き取りを実施
回答：112名

○近隣住民アンケート調査

実施日：平成29年11月26日(日)～12月21日(木)
対 象：実験車両走行ルート沿線の居住世帯
調査方法：近隣100世帯等へ訪問し配布回収を実施
回答：279名



乗客モニターアンケート調査

アンケート調査状況と回答者の属性

	調査方法	調査母数	アンケート 回収数	高齢者割合 (65歳以上)	運転免許 保有率
乗客 モニター	道の駅で 直接聞き取り を実施	実験期間中の 乗客モニター数 122名	112名 (男性74・女性38)	38%	82%
近隣住民	近隣住民100世帯へ の訪問による配布回 収及び役場の協力に よる配布回収を実施	実証実験ルート 近隣地区人口 3,630名 (H29・9月登録人口)	279名 (男性141名・女性132名 ・不明6名)	24%	87%

注1) 近隣住民の調査対象地区は、今回の実証実験ルートの近隣地区を大樹町役場と協議の上選定。
注2) 近隣住民の回収数には、回収の結果、一部、近隣地区以外の回答も含まれているが最大限回答結果を活用している。
注3) 近隣住民の回収数には、乗客モニターとして実験に参加した住民(12名)も含まれている。

(5) ヒアリング調査の概要

実施日：平成30年1月29日(月)～30日(火)
対 象：行政、生産者、商業者、観光事業者、交通事業者等の実験協力者
調査方法：訪問面談ヒアリング

ヒアリング先		住民	大樹町	商工会	商工会 (道の駅担当)	J A	生産者 (大樹町)	生産者 (足寄町)	観光協会	観光事業者	ヤマト運輸	先進モビリティ	富士新舗道	雅交通	十勝バス
ヒアリング項目															
地域への効果	①円滑な地域内物流の支援	○		○	○	○	○	○			○				
	②高齢者の外出機会の増加	○	○												
うち ビジネス モデル 検討分	③運営主体のあり方		○	○	○	○			○		○			○	○
	④採算性確保の方策	○	○				○	○				○	○	○	
	⑤他事業との連携			○	○	○			○	○	○			○	○